



今週のPOINT

国内株式市場

TSMCなどの半導体決算、米CPIなどに関心が向かう

今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

日本M&AセンターHD【プライム 2127】ほか

テーマ別分析

防御から復旧まで、サイバーレジリエンス関連に注目

話題のレポート

アクティビスト後追い戦略の有効性

スクリーニング分析

中期スタンスで期待の中小型高配当利回り銘柄

決算発表本格化控えて様子見ムードにも

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3
			新興市場	4
		米国株式市場		5
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6
2	マーケットを読む	今週のポイント		7
		日経平均株価		8
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	日本M&A センターHD 〈2127〉 プライム	9
			東ソー 〈4042〉 プライム	10
			ココナラ 〈4176〉 グロース	11
			野村総合研究所 〈4307〉 プライム	12
			トレンドマイクロ 〈4704〉 プライム	13
			ARE ホールディングス 〈5857〉 プライム	14
			クボタ 〈6326〉 プライム	15
			ナカニシ 〈7716〉 スタンダード	16
		読者の気になる銘柄	安川電機 〈6506〉 プライム	17
			ファーストリテイリング 〈9983〉 プライム	17
		テクニカル妙味銘柄	日本空港ビルディング 〈9706〉 プライム	18
			チェンジホールディングス 〈3962〉 プライム	18
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19
		スクリーニング分析		20
		先週の話題レポート		21
		信用需給動向		22
5	連載コラム			
				23

TSMC などの半導体決算、米 CPI などに関心が向かう

■日経平均は一時 7 万円台回復も週後半は伸び悩み

先週の日経平均は前週末比 721.46 円高 (+1.1%) の 69030.92 円で取引を終了した。週初から買いが先行し、7 月 6 日以来の 70000 円台を回復。前週末に発表された雇用統計が市場予想を下回ったことで、米連邦準備制度理事会 (FRB) の 10 月利上げ懸念が後退したことを材料視された。その後も、米ハイテク株の上昇や為替市場での円安進行を手掛かりに上値を伸ばし、6 日には一時 70798 円まで上昇する展開となった。

一方、週後半は伸び悩み動きとなった。9 月 14 日安値から 8000 円超高と、ここまでの急ピッチの上昇に対する警戒感、並びに、70000 円台回復に伴う目先の達成感から、AI・半導体関連を中心に利益確定の動きが強まる形となったもよう。また、長期金利の上昇を警戒した米国株安なども重しとなった。週末は、米半導体株指数 (SOX 指数) の下落やオープン AI の売上高下振れ観測報道を受けて、一時 800 円超下げる場面もあったが、急速に下げ渋って取引を終えている。

■米国経済指標や IMF 世界経済見通しなど注目

先週末の米国株式市場は上昇。ダウ平均は前日比 423.31 ドル高の 51654.95 ドル、ナスダックは同 172.83 ポイント高の 27366.17 で取引を終了した。225 ナイト・セッションは日中終値比 500 円安の 68970 円。オープン AI の売上高下振れ報道を受けた前日の下落は過剰反応との見方が強まったほか、トランプ米大統領がロシアの軽油供給で合意し燃料価格下落への期待も高まった。

中間選挙までイラン攻撃を行わないとのトランプ米大統領の発言を受け、中東情勢への警戒感がやや後退したほか、国債入札を波乱なく通過したことで、週後半にかけ米国債利回りは低下している。ただ、7 日には 10 年債利回りが一時 5.36% と 2002 年以來の高水準をつけており、依然として米国金利の上昇が懸念される状況にある。今週も小売売上高や消費者物価指数 (CPI) など米国の経済指標には関心が高まることとなろう。小売売上高は前月比で伸び鈍化が予想されており、どの程度の利回り低下を促すかが注目される。一方、CPI は前年比での伸び加速が想定されているが、市場想定並みにとどまれば、10 月利上げ観測は一段と後退することになり、市場にとってはポジティブに作用しよう。いずれにしても、それぞれ上振れは長期金利上昇を促すとみられ、株式市場のリスク要因であろう。

国内では 3 連休明け後も大きなイベントは予定されていないが、13 日に発表される国際通貨基金 (IMF) の世界経済見通しは、欧州の投資家を中心にカントリーアロケーションの決定要因になるとされている。日本の経済見通し次第では短期的な需給の変動要因につながる可能性がある。6-8 月期の決算発表も本格化するが、小売セクターなどが中心であり、全体相場

の方向性が生じるような流れにはなりにくい。なお、先週末の引け後に発表された安川電機<6506>の決算は、通期予想を下方修正しているものの、6-8 月期の営業利益や受注高は市場予想を上振れているとみられ、ポジティブな反応が予想される。

■ASML や TSMC の決算は、好決算を受けての株価反応に注目

今週は米国で金融機関の 7-9 月期決算発表が集中する。国内メガバンクや大手証券株に影響を及ぼす可能性がある。より注目されるのは、蘭 ASML や台湾 TSMC などの大手半導体企業の決算発表になるといえる。ASML は 14 日に決算発表予定、4-6 月期決算発表時には、通期の売上高、粗利益率見通しを上方修正しており、ネガティブ決算は想定しにくい。ただ、株価は年初来の高値圏にあり、出尽くし感が生じる可能性は残るだろう。対中輸出規制などの行方にもまだ不透明感はある。TSMC も売上高の速報値を発表済みで、四半期ベースでは過去最高を更新している。年間売上高見通しの再引き上げがあるかなどが注目点だが、先行きの追加情報の多くは、次回の本決算発表の際になるとみられ、こちらも好決算を受けての株価反応が焦点となるだろう。なお、国内半導体株に影響を与える設備投資計画は据え置かれるとみられているようだ。

先週の株式市場では、連日で不正アクセス被害が伝わったことで、サイバーセキュリティ関連銘柄の人気化に注目が集まった。連休中も新たな被害が表面化する公算があり、週末要因に伴う換金売り一巡後の押し目買いの動きなどは注目されよう。将来的な AI に抱いた懸念は拭い切れていないと考えられるものの、短期的には事業機会の増大につながる可能性は高いと考えられる。また、SAAS 関連銘柄の決算発表も多く予定されている。足下では AI 関連銘柄の動向と逆相関的な動きを見せており、相場環境次第では好決算への反応が強まる余地も大きい。

■米国では消費者物価指数が発表予定

今週、国内では、13 日に 9 月国内企業物価指数、14 日に 9 月マネーストック、15 日に 8 月機械受注が発表される。なお、12 日はスポーツの日の祝日で休場となる。

海外では、13 日に米・9 月中古住宅販売件数、9 月財政収支、14 日に中・9 月生産者物価・消費者物価指数、9 月貿易収支、米・9 月消費者物価指数、ページブック、15 日に欧・9 月鉱工業生産、米・9 月小売売上高、9 月生産者物価指数、10 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、10 月 NY 連銀製造業景気指数、新規失業保険申請件数、16 日に欧・8 月貿易収支、米・9 月輸出入物価指数、9 月鉱工業生産・設備稼働率などが発表される。なお、12 日から 18 日にかけて IMF・世界銀行年次総会が開催され、13 日には IMF が世界経済見通しを発表する。

株式会社フィスコ

ネットセキュリティ関連株が活況か、3連休明けで短期マネー回帰

■先週末に値上がりした成長株を中心に資金を集めるか

今週の新興市場は、3連休明けによる短期売買マネーの回帰が予想され、値上がり銘柄が追随買いでにぎわう需給主導の相場となりそう。トランプ米大統領は、11月3日の中間選挙までイランへの軍事攻撃を停止すると10月8日にSNSに投稿し、原油高騰への警戒感の後退しつつある。原油価格の落ち着きは日本にとって円安進行やインフレ懸念による金利上昇圧力を緩和し、データセクション<3905>、アストロスケールホールディングス<186A>、サンバイオ<4592>など先週末に値上がりした成長株を中心に資金を集めよう。

一方、企業・団体などからの情報流出が止まらず、サイバー防衛への関心が市場内外で急速に高まっている。サイバーセキュリティクラウド<4493>、カウリス<153A>、サイバートラスト<4498>、サイバーソリューションズ<436A>などネットセキュリティ関連株も活況が予想される。

先週末大引け後に情報開示のあった銘柄では、26年9月期通期業績予想を上方修正したサイバー・バズ<7069>、27年8月期の2桁増益を予想するバリュエンスホールディングス<9270>、ヒト3次元皮膚モデルの販売を開始したリプロセル<4978>などに注目。

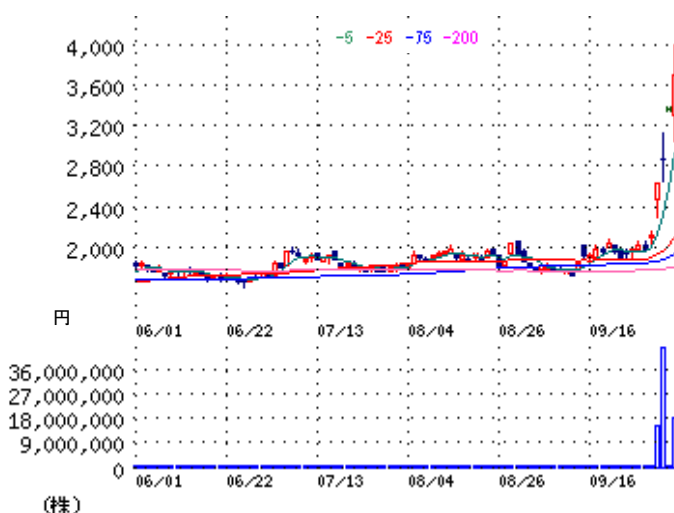
今週のIPOは、10月15日にグロース市場に上場予定のルクレ<648A>の1件。建設現場などから送った写真をAIが整理するシステムは国内シェア首位。9月25日のレイヤード<634A>以来のIPOであるほか、10月30日のトグルホールディングス<652A>上場までIPOの空白期間に入るため、初物人氣が期待される。

先週の東証による上場承認は1件。来訪者の受付や出退室管理システムを提供するRECEPTIONIST<660A>が11月10日、グロース市場に上場予定となっている。

東証グロース市場 250 指数



サイバーセキュリティクラウド<4493>



サイバー・バズ<7069>



海外半導体企業の決算発表を受けた株価反応が焦点に/米国株式相場 今週の見通し

■先週の動き

先週の米国株は上昇。騰落率は、NY ダウが+0.93%、ナスダックが+0.64%、S&P500が+1.15%。前週末に発表された雇用統計の下振れによる10月利上げ懸念の後退、主要7カ国(G7)の石油備蓄協調放出決定による原油安などを背景に、週前半は買いが優勢となった。人工知能(AI)・半導体関連株が相場をけん引する形に。一方、週央にかけては、長期金利の上昇傾向に改めて警戒感が強まった。また、NYダウへの寄与度が高いキャタピラーの株価下落が重しとなる場面もあった。週後半にかけ、オープンAIの売上高下振れ観測報道が伝わったことから、AI関連への警戒感が強まる局面も見られた。週末は、オープンAIを巡る報道には過剰反応との見方が強まったほか、トランプ大統領がロシアの軽油供給で合意したことで、燃料価格下落への期待も高まる展開となった。

個別では、産業用ソフトウェア企業のPTCは、仏電力設備メーカーが同社の買収で合意し上昇。アマゾン、プライムデー開始で売上増期待に買われた。マーベルは、投資家デーにおいて28年通期収益目標を引き上げ上昇。AMDも、CEOが今後数年間の半導体需要が非常に強いと楽観的見解を示し買い優勢に。コンスレテレーション・エナジーは、アルファベットと20年間原子力発電を供給する契約を締結し好感された。ゼットスケラーはIBM、レッドハットと提携し、プライベートアプリ用サイバーセキュリティ開発が伝えられ、材料視される形に。マテルは、香港の競合ZURUによる買収対象となる可能性など、売却・合併の戦略的選択肢検討の可能性が報じられ上昇。ペプシコは、第3四半期で収益が予想を上回った。モデルナやメルクは、国立衛生研究所が官民共同でがん治療ワクチンの開発や治験を迅速に進める計画が報じられて上昇した。

一方、キャタピラー、ディアなどは、連邦取引委員会(FTC)と農務省が反競争的行為の疑惑で農業機械の製造・流通について調査していることを明らかにし下落。スペースXは、エスビディア製半導体購入用に400億ドルの資金調達を模索しているとの報道で、信用リスクの上昇が警戒された。クラウド・ストライクは、アンソロピックがオープンソースAIサイバーセキュリティ製品を供給すると発表したために競争激化を警戒。CVSヘルスは、傘下のエトナの評価が低下して減益が懸念された。アップルは、スマートホーム機器事業で韓国のLGと共同開発する計画が報じられたほか、13日のイベント開催への期待感に上昇したが、週末には、スマホ上位機種向けの部品生産を減らすよう一部のサプライヤーに伝えたと報じられ、新製品の需要を巡る不透明感から伸び悩んだ。

■今週の見通し

今週から7-9月期の決算発表が本格化する。とりわけ、今週は金融機関の決算発表が集中、金利上昇局面の中、トレーディング収入や手数料収入の大小で、明暗を分けることになるとの見方が比較的多いようだ。また、決算発表では、引き続きAI関連への注目度が高まるとみられる。全般的に好業績が見込める状況にあり、先行き見通しにも楽観的な見方が多いが、これまでも一極集中的に買い進まれてきた経緯から、短期的な出尽くし感の有無が注目されることになろう。その意味では、今週は蘭ASMLや台湾TSMCなどの大手半導体企業の決算発表が予定されている。ASMLは14日に決算発表予定、4-6月期決算発表時には、通期の売上高、粗利益率見通しを上方修正しており、ネガティブ決算は想定しにくい。ただ、株価は年初来の高値圏にある状況だ。対中輸出規制などの行方にも依然不透明感が残ろう。15日発表予定のTSMCも売上高の速報値を発表済みで、四半期ベースでは過去最高を更新している。年間売上高見通しの再引き上げがあるかなどが注目点だが、先行きの追加情報の多くは、次回の本決算発表の際になるとみられ、こちらも好決算を受けての株価反応が焦点だ。

先週後半にかけ米国債利回りは低下方向にあるが、7日には10年債利回りが一時5.36%と2002年以来の高水準をつけるなど、引き続き警戒感は拭えない状況にある。今週も小売売上高や消費者物価指数(CPI)などの経済指標に関心が集まることになる。小売売上高は前月比で伸び鈍化が予想されている一方、CPIは前年比での伸び率加速が想定されているが、市場予想に対する上振れ次第では一段の金利上昇リスクがある。なお、CPIが多少上振れしても、10月の連邦公開市場委員会(FOMC)における利上げ決定は想定しにくい。

経済指標は、13日に9月中古住宅販売件数、9月財政収支、14日に9月消費者物価指数、ページブック、15日に9月小売売上高、9月生産者物価指数、10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、10月NY連銀製造業景気指数、新規失業保険申請件数、16日に8月対米証券投資、9月輸出入物価指数、9月鉱工業生産・設備稼働率、10月NY連銀ビジネスリーダーズサーベイなどが発表される。

主な決算発表は、13日にシティグループ、ゴールドマン・サックス、J&J、JPモルガン、ウェルズ・ファーゴ、ユナイテッドヘルス、14日にバンク・オブ・アメリカ、ブラックロック、モルガン・スタンレー、15日にUSバンコプ、アルコア、16日にトラベラーズなどが予定されている。

為替市場

米ドル・円 予想レンジ

155.00 円 ~ 161.00 円

ドル・円は底堅いか。上昇基調で日米協調介入が警戒され、下押し圧力が強まる見通し。ただ、引き締め的な米金融政策への思惑から、米金利高・ドル高は継続しそうだ。日銀は追加利上げに慎重との見方や高市政権の財政運営に対する懸念から、円売りに振れやすい地合いが続いている。ただ、日本の「防衛ライン」とされる 160 円が射程圏内に入り、ドル売り・円買い圧力が強まる可能性もある。足下で発表された米経済指標は雇用統計をはじめ弱い内容が目立つ。それを受け米連邦準備制度理事会（FRB）の複数の当局者からややハト派的な見解が聞かれ、今月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での追加利上げ観測は後退しつつある。ただ、10月7日に公表された直近のFOMC議事要旨では、参加者の大半が年内の追加利上げが適切になるとの見方を示しており、ドルは売りづらい展開となりそうだ。米国内の人工知能（AI）開発に関する資金需要の観点からも、長期金利は当面高水準を維持するとみられ、ドル買いを支える見通し。ドル・円はクロス円に連れ安する場面もみられるが、下値は限定的で、底堅さが意識されそうだ。

【米・9月消費者物価指数】（14日発表予定）

14日発表の米9月消費者物価指数（CPI）は前年比+3.6%（8月+3.4%）、コア指数は同+2.5%（同+2.4%）と伸びが加速する見通し。米金利高で反応すればドル買い地合いに。

【米・9月小売売上高】（15日発表予定）

15日発表の米9月小売売上高が引き続き良好なら、国内総生産（GDP）への好影響を期待しドル買い先行。8月分は前月比+1.1%と、予想外に消費の強さが目立った。

債券市場

■先週の動き

先週（10月5日～9日）の債券市場で長期債利回りは、週前半に高水準圏の3.1%台でもみ合った後、週末にかけて低下した。2日に発表された米9月雇用統計は非農業部門雇用者数が+2.9万人（予想+8.8万人）と大きく下振れ、連邦準備制度理事会（FRB）の追加利上げ観測は後退したが、米10年債利回りは1日に一時5.3%台と約24年ぶりの高水準まで上昇しており、国内債にも上値の重さが残った。その後、7日の米10年債入札、8日の米30年債入札で強い需要が確認されて米長期金利が低下に転じたことから、国内債にも買いが波及した。

10年債利回りは週末にかけて低下。3.098%近辺で5日の取引を開始し、5日の米長期金利の上昇などを背景に、6日には3.122%近辺まで上昇した。7日は新発10年債が384回債に切り替わり、午前は前日の欧米金利の低下を受けて一時3.080%近辺まで低下したが、日本時間の米長期金利上昇を受けて午後は売りが優勢となった。8日は原油先物の下落や超長期債への買いが支えとなって3.076%近辺まで低下し、9日は米債高や米原油先物の上昇一服もあって3.001%近辺まで低下、同水準でこの週の取引を終えた。

債券先物12月限は週末にかけて反発。124円38銭で5日の取引を開始し、124円63銭まで上昇する場面もあったが、利回り上昇に伴う売りに押され、7日には123円96銭まで下落した。8日は原油先物の下落や超長期債への買いを受けて124円71銭まで上昇し、9日は米債高を背景に125円00銭まで上げ、124円80銭でこの週の取引を終えた。

■今週の見通し

今週（10月12日～16日）の債券市場で長期金利は3%前後でのみ合いとなる見込み。12日はスポーツの日で東京市場が休場となり（米国債券市場もコロンブスデーで休場）、国内の取引は13

債券先物予想レンジ

124.00 円 ~ 125.50 円

長期国債利回り予想レンジ

2.950 % ~ 3.150 %

日からの4営業日となる。先週末に約3週間ぶりの低水準まで低下した反動から戻り待ちの売りが出やすい一方、10月27-28日開催予定の米連邦公開市場委員会（FOMC）、29-30日開催予定の日銀金融政策決定会合を控え、様子見姿勢も強まりやすい。

最大の注目材料は、14日21時30分（日本時間）に発表される米9月消費者物価指数（CPI）。国内債券市場の引け後の発表のため、国内債への影響は15日の取引から反映される。市場予想は前年比+3.6%（8月+3.4%）、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは前年比+2.5%（8月：同+2.4%）と、燃料価格の上昇を背景に伸びの加速が見込まれている。予想を上回れば、10月FOMCでの追加利上げ観測が再燃して米長期金利が上昇し、国内金利にも上昇圧力がわかりやすい。一方、予想を下回れば、利上げ観測の後退で米金利が低下し、国内金利にも低下圧力がかかる可能性がある。15日発表の米9月小売売上高（予想前月比：+0.3%、8月：同+1.1%）も手掛かりとなる。

国内では、14日の5年債入札（2.5兆円）の結果が需給面の手掛かりとなる。日銀の追加利上げ観測については、植田総裁が9月会合後の記者会見で10月会合での利上げに言及しなかったことなどから不透明感が残っており、16日に予定される植田総裁の挨拶（内田副総裁が代読）で、今後の金融政策に関する記述があるかどうかにも注目される。中東情勢を背景とした原油高も、インフレ懸念を通じて引き続き相場の重しとなる可能性がある。

債券先物12月限は主に124円台後半から125円台前半で推移が。米CPIの結果次第で振れが大きくなる可能性があるが、CPIが市場予想を上回った場合は米金利上昇に連れて国内長期金利も上昇し、債券先物は軟調な展開も想定される。

株式会社フィスコ

AI・半導体関連株への警戒続く中、今週は ASML や TSMC が決算を発表へ

先週の日経平均は続伸。雇用統計を受けた米国の早期利上げ懸念後退で週前半に買いが優勢となり、7月6日以来の70000円台を一時回復。週後半にかけては、短期的な上昇ピッチの速さを警戒して、AI・半導体関連中心に伸び悩んだ。業種別では、サービスセクターや食料品などが上昇、一方で非鉄金属が下落率トップ、後半にかけて国内長期金利の低下で銀行株も軟調。不正アクセス被害が相次いで報告され、セグエグループ、ソリトンシステムズ、デジタルアーツ、トレンドなどサイバーセキュリティ関連銘柄が幅広く買われる展開にもなった。米キャタピラーなどの株価下落で建設機械株が一斉安となる場面も。

個別では、週末に決算発表を受けてファストリが下落、サプライズが乏しく地合い悪化に押された。ソフトバンクGもオープンAIの売上高下振れ報道が弱材料視された。決算では、不二越、パルグループ、三協立山、ツルハHD、ABCマート、ローツェ、乃村工藝社、オンワード、吉野家などが高評価され、上方修正のIDEC、古野電気なども上昇。霞が関キャピは売り先行も説明会を受けて切り返す。半面、ネクステージ、わらべや日洋などは決算を受けて下落。ディスコも7-9月個別売上速報発表で出尽くし感先行。ほか、JCRファーマは伊社とのライセンス契約締結が材料視される。半面、公募増資発表のインフロニア、IPSは希薄化がネガティブ視され、ソディック、CKDは売出による需給悪化が懸念される。TOKYOBASEは月次動向が嫌気される。ACCESSは米国においての訴訟提起を警戒視。

オープンAIを巡る報道を受けての株価下落は過剰との見方から、先週末の米国市場は反発したが、SOX指数は続落となっている。AI・半導体関連の上値追いは引き続き警戒感が強まる状況とみられる。14日の蘭ASML、15日の台湾TSMCの決算発表後の株価反応を見極める必要があるようだ。一方、先週末に決算を発表した安川電機だが、下方修正を行っているものの、6-8月期の実績数値や受注高は市場想定以上とみられ、株価の反発材料につながりそうだ。フィジカルAI分野の成長余地も織り込む余地があり、短期的に同関連銘柄などには関心が向かう可能性もあろう。今週から米国市場では決算発表が本格化する。今週の主軸となる金融関連株は、影響がメガバンクや大手証券会社などの一部に限られようが、J&Jの決算などは、相場付きによってはディフェンシブ銘柄に影響を与える余地も。

連休明けの国内市場では目立ったイベントが予定されていないが、IMFの世界経済見通しには注目も。日本の経済見通しが上方修正された場合、短期的に海外投資家の資金が国内市場に還流する余地が生まれるため。ほか、長期金利の行方を左右する米国の小売売上高やCPIなどにも関心が向かう。物色テーマとしては、連休中の不正アクセスに関するニュースフロー次第で、あらためてサイバーセキュリティ関連などが注目されてこよう。ほか、SAAS関連の決算発表も予定されていることで、AI関連銘柄の調整が続く状況にあれば、好決算に対するポジティブ反応が強まると期待される。

先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値（円）	騰落率（％）	コード	銘柄	終値（円）	騰落率（％）	上位セクター	騰落率（％）
3762	テクマトリックス	3,085.0	22.62	8798	アドバンスクリエイト	72.0	-18.18	サービス業	3.89
6323	ローツェ	5,134.0	21.72	5076	インフロニア・ホールディングス	2,240.0	-16.90	ゴム製品	3.52
3788	GMOグローバルサイン・ホールディングス	2,375.0	20.74	6740	ジャパンディスプレイ	39.0	-15.22	食料品	3.40
3968	セグエグループ	826.0	19.36	4390	アイ・ピー・エス	3,410.0	-13.67	精密機器	3.28
3040	ソリトンシステムズ	3,085.0	16.50	4813	ACCESS	365.0	-13.51	その他製品	3.13
6871	日本マイクロニクス	17,330.0	15.38	8343	秋田銀行	1,767.0	-13.08	海運業	2.73
2326	デジタルアーツ	5,830.0	14.76	3179	シュッピン	1,137.0	-11.24	化学工業	2.08
5932	三協立山	739.0	14.57	8345	岩手銀行	2,506.0	-10.82	下位セクター	騰落率（％）
3994	マネーフォワード	6,827.0	14.03	8541	愛媛銀行	3,235.0	-10.01	非鉄金属	-3.03
6266	タツモ	4,755.0	14.03	7721	東京計器	6,770.0	-9.97	銀行業	-2.98
9552	クオントス総研ホールディングス	1,139.0	13.90	285A	キオクシアホールディングス	17,505.0	-9.30	建設業	-2.31
4462	石原ケミカル	3,360.0	13.90	8713	フィデアホールディングス	2,599.0	-8.78	鉱業	-1.85
7740	タムロン	1,550.0	13.22	9699	ニシオホールディングス	3,970.0	-8.63	鉄鋼	-1.45
6258	平田機工	4,370.0	12.63	8387	四国銀行	4,285.0	-8.54	水産・農林業	-1.22
4461	第一工業製薬	16,660.0	12.19	8362	福井銀行	7,560.0	-8.36	卸売業	-1.14

もみ合いか、週足ほぼ十字線で売り買い拮抗示唆

■どちらの方向にも株価が大幅変動する可能性に留意

先週（10月5-9日）の日経平均株価は4週連続で上昇した。1週間の上げ幅は721.46円（先々週1945.26円）だった。

先週の日経平均は週初10月5日ザラ場で節目の7万円を突破し、翌6日は70798.62円まで上値を伸ばした。その後は上げ幅を削り、7万円割れに押し戻されて先週末大引けを迎えた。

今週はもみ合いが予想される。25日移動平均線が上向きで推移する一方、先週末まで2日連続で終値が5日線を下回り、短期的な騰勢一服を示唆している。週足では小陰線の胴体部分から上に長いヒゲを出し十字線に近い形状を描いており、先週末終値69030.92円付近での売り買いは伯仲している模様だ。

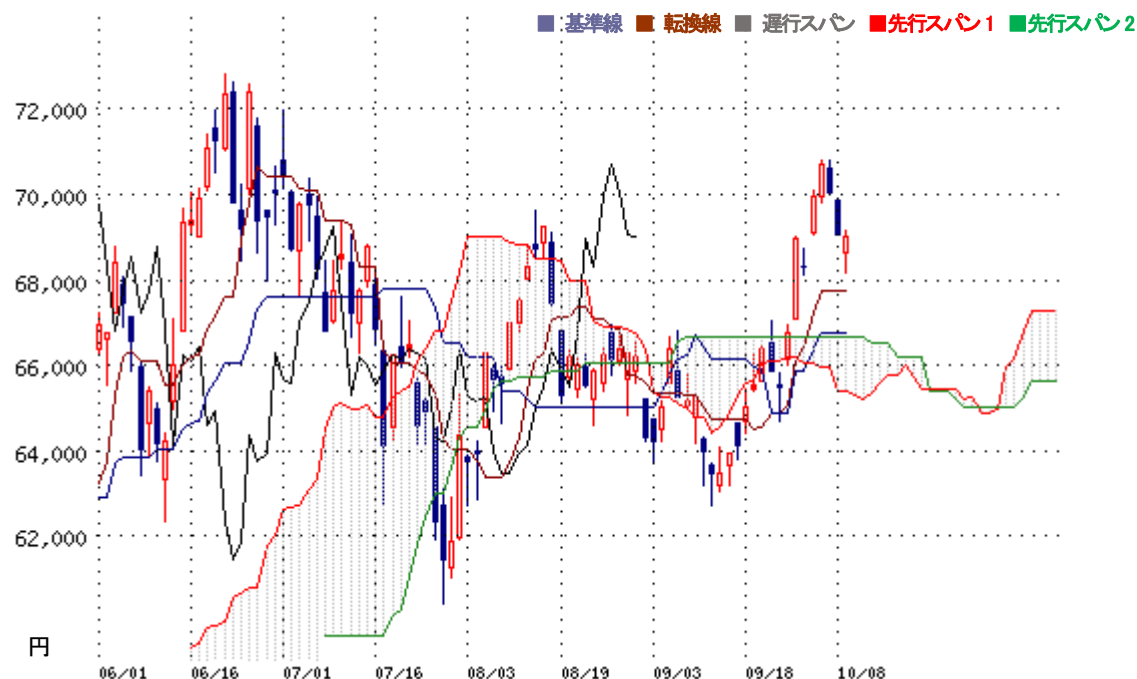
先週末終値が25日線を上回る銘柄は、日経平均採用225銘柄で95銘柄（先々週末72銘柄）、プライム市場全銘柄でも38%（先々週末29%）といずれも増加した。相場全体では短中期投資家の含み益増大と買い余力回復が推察される。

ボリンジャーバンド（25日ベース）では、5日と6日の終値

が+2σを上回った後、先週末9日は一時+1σを下回った。株価は中心線上方の買い手優勢の位置にとどまっているが、短期的な上値拡張の終了を示唆している。一方、直近3週末終値の1σの値幅は969.85円→1360.76円→2240.44円と急拡大してきた。このため、今週は上下どちらの方向にも株価が大幅変動する可能性に留意が必要となろう。

上値では、節目の7万円を中心ラインに6日高値70798.62円までが抵抗ゾーンとして意識される。今週の7万円奪回とその後の値固めが難航すれば調整色が一旦強まりそうだ。ただ、25日線や13週線が株価下方で上向いており、中長期ベースの上昇局面継続が予想される。一目均衡表は日足、週足ともに三役好転の強気形状を保っていることもあり、7万円前後の抵抗ゾーンを明確に突破できない場合でも値幅調整に進むのではなく、日柄調整の形で騰勢回復を待つ展開が予想される。

一目均衡表（日経平均）



日本 M&A センターHD 〈2127〉 プライム

高水準の営業利益率維持、配当利回り 4.7%前後で推移

■ 今期第1四半期は小幅増収・営業減益

中堅・中小企業の事業承継型 M&A 仲介を主力とする独立系大手。26 年 3 月期第 1 四半期の売上高は 91.04 億円(前期比 0.9%増)、営業利益は 23.49 億円(同 6.4%減)で着地した。新規売り受託件数は 347 件(同 20.1%増)となり、このうちミッドキャップ企業(売上高 10 億円以上又は利益 5 千万円以上)案件は 76 件(同 31.0%増)と大きく伸長した。通期計画では、売上高 528 億円(前期比 5.1%増)、営業利益 193 億円(同 2.9%増)を見込む。営業利益率は 36%台と高水準を維持する計画であり、案件成約の積み上げが今後の業績を左右する。

■ 事業承継需要を背景に成長余地

後継者不足を背景とした中小企業の M&A 需要を取り込み、M&A 仲介に加えて PMI 支援やファンド事業など周辺領域への展開を進めている。同社は 27 年度の売上高 540 億円、経常利益 200 億円を中期目標に掲げ、ROE20%以上の維持や配当性向

売買単位	100 株
10/9 終値	622.5 円
目標株価	660 円
業種	サービス

60%以上を基本方針としている。27 年 3 月期の年間配当は 29 円を計画し、予想配当利回りは約 4.7%。株価は 9 月以降下落傾向にあり、10 月 5 日には年初来安値 607 円を付けた。10 月 30 日に予定される上期決算を控える中、目先の目標株価は 660 円とする。

★ リスク要因

業界に対する規制強化など。

2127: 日足

10 月に年初来安値更新。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	41,315	2.3%	15,298	15,472	-8.3%	9,842	29.76
2024/3連	44,136	6.8%	16,066	16,518	6.8%	10,727	33.04
2025/3連	44,077	-0.1%	16,715	16,918	2.4%	10,955	34.54
2026/3連	50,257	14.0%	18,761	19,154	13.2%	12,487	39.36
2027/3連予	52,800	5.1%	19,300	19,300	0.8%	13,400	41.91

東ソー〈4042〉プライム

高シェア製品多数、第1四半期営業利益は93.9%増

■国内生産唯一の製品も

エチレンやプロピレンなどの「石油化学」事業が売上高の17%を占め、苛性ソーダや塩化ビニル樹脂などの「クロル・アルカリ」事業が34%、ファイン製品や電子材料などの「機能商品」事業が27%、水処理装置や建設・修繕を行う「エンジニアリング」事業が18%などとなっている。利益は機能商品とエンジニアリングが牽引する(26年3月期)。自動車用ホースなどに使われるCSM(合成ゴム)や歯科用セラミックス材料に使われるファインセラミックス用ジルコニア粉末などで世界トップシェア。電池の正極材に使われる電解二酸化マンガンを、紙力増強剤や農薬などに使われるエチレンアミンなどの国内唯一の生産者でもある。

■中東情勢の緊迫化で販売価格上昇

27年3月期第1四半期売上高は2741.74億円(前年同期比11.8%増)、営業利益は311.83億円(同93.9%増)。中東情勢の

売買単位	100 株
10/9 終値	2601.5 円
目標株価	3086 円
業種	化学

緊迫化でナフサ価格や主要製品の海外市況が上昇し、販売価格が堅調に推移。円安効果もあり収益を押し上げた。27年3月期通期売上高は1兆1700億円(前期比14.7%増)、営業利益は1050億円(同9.9%増)予想。株価はやや上値が重い業績は好調だ。年初来高値3086円を目標株価としたい。

★リスク要因

中東情勢の不透明感による商品市況の乱高下など。

4042:日足

下値は200日線が支える形に。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	1,064,376	15.9%	74,606	89,983	-43.9%	50,335	158.14
2024/3連	1,005,640	-5.5%	79,845	95,920	6.6%	57,324	180.07
2025/3連	1,063,382	5.7%	98,906	103,005	7.4%	58,002	182.13
2026/3連	1,019,917	-4.1%	95,532	106,752	3.6%	41,615	132.40
2027/3連予	1,170,000	14.7%	105,000	107,000	0.2%	59,000	191.63

ココナラ〈4176〉グロース

AI 事業への本格参入で成長加速へ、収益貢献に注目

■豊富な顧客基盤を強みにAI領域へ展開

個人の知識・スキル・経験を売買できる「ココナラスキルマーケット」を中核に、IT フリーランス紹介の「ココナラテック」や業務支援の「ココナラアシスト」などを展開。62 万社超の法人顧客と 140 万人超のスキル登録者を強みに、人材不足に悩む企業の課題解決を支援する。近年は AI 領域への展開を強化しており、AI スキル人材の登録促進や専門カテゴリの拡充に加え、ChatGPT や Claude との連携サービスを開始。対話型 AI を新たな顧客接点として活用し、マッチング機会の拡大を図る。

■AI開発企業を子会社化、決算で成長戦略に注目

10 月 7 日、AI 実装型コンサルティングを手掛ける Acrosstudio の子会社化を発表。ココナラの顧客基盤との相乗効果が期待される。今回の買収を機に、法人向け AI コンサルや AI 開発・導入支援、AI BPO 事業へ本格参入する方針。既存事業でも 26 年 8

売買単位	100 株
10/9 終値	273 円
目標株価	350 円
業種	情報・通信

月期第 3 四半期はエーエージェント事業が初の四半期黒字化を達成するなど収益改善が進む。一方、AI 関連事業の本格的な収益貢献はこれからであり、10 月 13 日の通期決算発表で示されるであろう来期業績予想や成長戦略に注目したい。株価は 75 日線付近での下げ止まりが焦点。目標株価は 350 円とする。

★リスク要因

同業他社との競争激化など。

4176: 日足

75 日線付近での下げ止まりが焦点。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2022/8連	3,837	-	-515	-511	-	-494	-
2023/8連	4,679	21.9%	-126	-168	-	-75	-
2024/8連	6,588	40.8%	304	225	-	243	10.21
2025/8連	9,410	42.8%	256	227	0.9%	306	13.07
2026/8連予	11,000	16.9%	450	450	98.2%	360	15.94

野村総合研究所<4307> プライム

1Q 業績は2桁営業増益、中計で営業利益2,000億円・ROE25%を目指す

■1Qは2桁営業増益、金融ITが牽引

国内最大級のコンサルティング・ITソリューション企業。27年3月期第1四半期は売上収益2,104.55億円(前年同期比7.5%増)、営業利益417.11億円(同12.0%増)と増収増益で着地した。金融ITソリューションは良好な受注環境と運用サービスの積み上がりで同18.9%の営業増益、IT基盤サービスもデジタルセキュリティが伸びて同24.8%の増益となった。産業ITソリューションは、新規案件が立ち上がり過程にあり、利益寄与が限定的であった。通期は売上収益8,500億円(前期比4.3%増)、営業利益1,750億円(前期はのれん減損で582億円)を見込む。

■中計で営業利益2,000億円を目指す

株価は2月に年初来安値3,518円をつけた後は戻り基調にある。同社は「中期経営計画(2026-2028)」で29年3月期に売上収益9,500億円、営業利益2,000億円、ROE25%を掲げ、AIによる

売買単位	100 株
10/9 終値	5613 円
目標株価	6000 円
業種	情報・通信

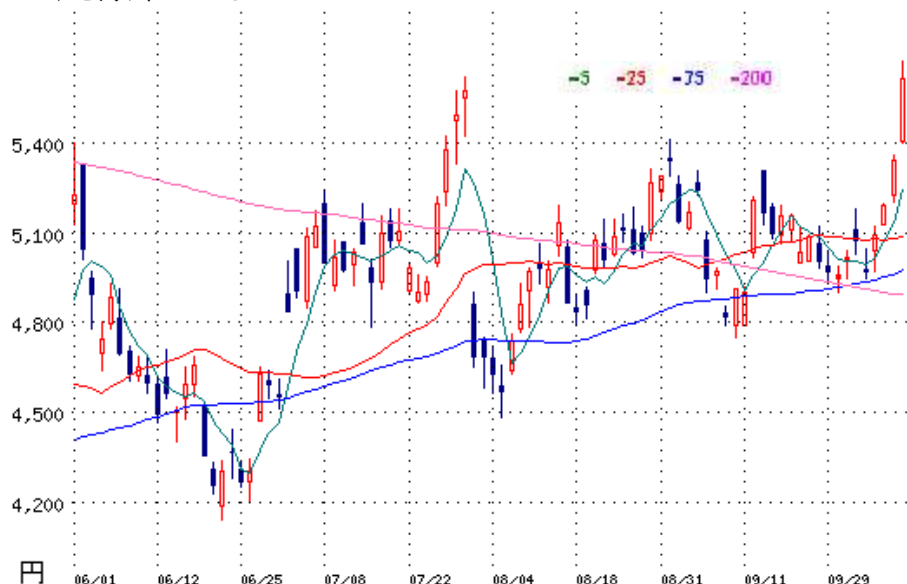
ビジネス変革、デジタルセキュリティ、社会共創サービスに投資を集中する。システム開発期間の短縮による回転率向上も行う。株主還元は配当性向40%を維持し、今期は前期比7円増の年間84円配当を予定、第1四半期には約700億円の自己株式取得も実施するなか、目先の目標株価は節目の6,000円とする。

★リスク要因

海外事業の再構築の遅れ、大型案件の採算悪化など。

4307: 日足

2月の年初来安値から戻り基調を継続。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連I	692,165	13.2%	111,832	108,499	3.7%	76,307	128.92
2024/3連I	736,556	6.4%	120,411	117,224	8.0%	79,643	136.90
2025/3連I	764,813	3.8%	134,907	134,161	14.4%	93,762	163.57
2026/3連I	814,708	6.5%	58,273	58,851	-56.1%	15,257	26.62
2027/3連I予	850,000	4.3%	175,000	177,000	200.8%	119,000	209.46

トレンドマイクロ<4704> プライム

法人向け TrendAI が牽引し上期 2 桁増収、セキュリティ関連物色で年初来高値

■ 上期は 2 桁増収も費用増で営業減益

法人・個人向けにサイバーセキュリティ製品・サービスを世界で展開する国内最大手。2026 年 12 月期第 2 四半期累計は売上高 1,485.96 億円(前年同期比 11.0%増)、営業利益 217.92 億円(同 23.5%減)で着地した。法人向け「TrendAI」が同 11.9%増と牽引し、Vision One 関連のARRも順調に拡大した。一方、円安による人件費増やAIトークンを含むクラウド関連費用、ブランド推進費用が膨らんだ。これを受けて、通期は売上高 3,015 億円(前期比9.2%増)を据え置き、営業利益は 444 億円(同23.2%減)に下方修正した。

■ セキュリティ関連物色で年初来高値を更新

株価は 8 月の下方修正で急落したが、9 月以降はセキュリティ関連物色に乗って切り返し、10 月 9 日には年初来高値 7,587 円をつけた。同社は統合プラットフォーム「TrendAI Vision One」へ

売買単位	100 株
10/9 終値	7587 円
目標株価	8000 円
業種	情報・通信

の移行を軸に、AI を活用した脅威検知・対応力の強化を進める。不正アクセス被害が相次ぐなか、企業のセキュリティ投資は底堅い。前期は年間 185 円を配当し、上期には約 50 億円の自己株式取得も実施。需要環境は良好であり、目先の目標株価は節目の 8,000 円とする。

★リスク要因

クラウド関連費用など費用増の継続、為替変動など。

4704: 日足

急落後に切り返し、年初来高値を更新。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2022/12連	223,795	17.6%	31,340	34,162	-23.2%	29,843	213.59
2023/12連	248,691	11.1%	32,602	36,181	5.9%	10,731	78.45
2024/12連	272,638	9.6%	48,105	52,840	46.0%	34,358	259.05
2025/12連	275,984	1.2%	57,777	53,980	2.2%	34,523	262.42
2026/12連予	301,500	9.2%	44,400	46,000	-14.8%	30,700	234.92

ARE ホールディングス〈5857〉プライム

貴金属リサイクルが主力、AI データセンター関連需要が急増

■金が売上収益の79%

貴金属リサイクル事業が主力。北米精錬事業や産業廃棄物業界向けシステム開発・コンサルティングなども手掛ける。貴金属リサイクルは貴金属含有のスクラップを回収し、分析・精製の後、メーカーへ現物返却または商品市場などへ販売する。全国 19 営業拠点の回収ネットワークや創業以来蓄積された分析・精製技術・ノウハウが強みとなっている。売上収益(売上高)を貴金属別に見ると、金が 79%を占め、プラチナ 5%、パラジウム 5%など。回収分野別では、宝飾が 76%、電子(都市鉱山)12%、デンタル(歯科用の補てつ物)10%などとなっている(26 年 3 月期)。

■第 1 四半期営業利益は前年同期比 2.0 倍

27 年 3 月期第 1 四半期売上収益は 1971.77 億円(前年同期比 43.8%増)、営業利益は 122.59 億円(同 2.0 倍)。宝飾分野で回収量が減少したが、取引条件の見直しに加え、市況改善が寄与し

売買単位	100 株
10/9 終値	3465 円
目標株価	4720 円
業種	非鉄金属

増益を確保。電子分野では AI データセンター関連需要が急増し、回収量・利益ともに前年同期を大きく上回った。27 年 3 月期通期売上収益は 6800 億円(前期比 19.3%増)、営業利益は 410 億円(同 10.8%増) 予想。株価はやや上値が重い、業績は好調だ。年初来高値 4720 円を目標株価としたい。

★リスク要因

金など貴金属相場の乱高下など。

5857: 日足

75 日線近辺が下値目か。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連I	274,209	42.5%	16,282	12,649	-52.0%	10,929	141.19
2024/3連I	322,253	17.5%	12,367	12,426	-1.8%	24,490	319.54
2025/3連I	506,211	57.1%	19,984	20,483	64.8%	14,319	187.13
2026/3連I	569,992	12.6%	37,088	34,706	69.4%	24,441	315.49
2027/3連I予	680,000	19.3%	41,000	40,000	15.3%	29,000	337.43

クボタ〈6326〉プライム

食料・水・環境領域で事業展開、26 年 12 月期営業利益は 50.7%増予想

■農機や建機で高シェア

食料・水・環境に関わる課題解決に貢献することをミッション(使命)としている。具体的な事業は、農機・エンジン事業が売上高の 68%を占め、建機事業が 21%、水環境関連事業が 12%などとなっている(25 年 12 月期)。市場分析研究所の 24 年調査によると、農機の世界シェアは 10.2%で 2 位となっている。稲作と畑作の両方を手掛け、特に稲作はアジアで高いシェアを占める一方、稲作の 4 倍の耕地面積を持つ畑作市場にもグローバルで展開している。また、ミニバックホー(小型の油圧ショベル)は世界販売台数 1 位を誇る。各事業で世界展開を進め、海外売上高比率は 77%(同)と、20 年間で約 2 倍に拡大した。

■通期利益予想は大幅に上方修正

26 年 12 月期上期売上高は 1 兆 6902.80 億円(前年同期比 16.2%増)、営業利益は 2356.67 億円(同 64.7%増)。販売拡大に

売買単位	100 株
10/9 終値	2626.5 円
目標株価	4000 円
業種	機械

加え、価格改定や固定費管理などが寄与した。26 年 12 月期通期売上高は 3 兆 2800 億円(前期比 8.6%増)、営業利益は 4000 億円(同 50.7%増)予想。上期決算発表時に、売上高を 4%、営業利益を 33%ほど、期初予想からそれぞれ引き上げた。株価は下値の堅い動きだ。次の大台 4000 円を目標株価とした。

★リスク要因

円相場の急激・大幅な変動など。

6326: 日足

売り出るが下値は限定的。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2022/12連I	2,676,980	21.9%	214,387	231,150	-7.9%	156,472	131.06
2023/12連I	3,020,711	12.8%	328,829	342,289	48.1%	238,455	201.74
2024/12連I	3,016,281	-0.1%	315,636	335,297	-2.0%	230,437	197.61
2025/12連I	3,018,891	0.1%	265,470	282,140	-15.9%	186,687	163.44
2026/12連I予	3,280,000	8.6%	400,000	417,000	47.8%	289,000	255.55

ナカニシ〈7716〉スタンダード

TOPIX 新規採用で需給改善期待、好業績も株価を下支え

■歯科用ハンドピースを主力に世界展開

歯科医療用機器の大手メーカー。歯を削る際などに使用する歯科用ハンドピースを主力に、外科用医療機器や産業用精密加工機器なども手掛ける。精密加工技術を強みにグローバル展開しており、主力の歯科事業に加え、外科事業を第2の成長の柱に育成する方針。4月には米国の Acra Cut と Intech を買収し、脳神経外科向け医療機器の製品群や製造基盤を拡充した。中期経営計画「NV2030」の実現に向け、既存事業の競争力強化とM&Aを通じた事業領域の拡大を進める。

■TOPIX新規採用、好業績と株主還元も評価材料

8月7日には好調な26年12月期中間決算を発表したほか、通期業績予想の上方修正、自己株式取得枠拡大や株式分割も発表し、株価は上昇。8月13日に年初来高値を更新したあとは、もみ合いながら調整が続いている。10月7日にTOPIXへの新規採用が正式に発表され、指数入れ替えに向けた買い需要が期

売買単位	100 株
10/9 終値	1433 円
目標株価	1700 円
業種	精密機器

待される。過去2年にわたり買収先に関連する減損損失を計上しており、M&Aの収益性には引き続き注意が必要となるものの、TOPIX採用による需給改善期待は株価に十分織り込まれていないとみる。需給改善を背景とした75日線回復に期待したい。目標株価は年初来高値付近となる1700円とする。

★リスク要因

買収先の収益悪化など。

7716:日足

75日線回復が焦点。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2022/12連	48,671	8.5%	15,389	17,646	26.5%	12,471	145.48
2023/12連	59,692	22.6%	14,251	17,193	-2.6%	22,799	267.62
2024/12連	77,041	29.1%	14,596	17,283	0.5%	8,577	101.37
2025/12連	81,179	5.4%	14,089	16,933	-2.0%	-2,398	-
2026/12連予	94,480	16.4%	18,649	19,062	12.6%	13,544	81.55

安川電機 プライム<6506>/通期業績下方修正もあく抜け期待は高まる

先週末に第2四半期の決算を発表している。6-8月期営業利益は136億円で前年同期比5.8%増となり、第1四半期の同19.2%減から増益に転じている。市場予想も20億円程度は上振れたとみられる。前四半期比ではロボットの利益が増加する形のような。また、受注高も1854億円となり、前年同期比では38%増、前四半期比でも13%増と順調に拡大。こちらもコンセンサスを上振れている。

通期営業利益予想は従来の600億円から575億円、前期比21.5%増に下方修正しているものの、修正のタイミングこそ見方に違いはあったが、第1四半期の状況からは想定線の水準と受け止められる。第1四半期決算発表以降の株価は低迷を続けており、十分にあく抜け感が意識される内容といえよう。時間外取引でも買いが先行する流れに。今後フィジカルAI関連としての期待感も高めやすくなるう。



ファーストリテイリング プライム<9983>/順調な決算発表も出尽くし感が先行へ

先週は週前半に買い先行後、伸び悩む展開へ。前週末に9月の月次動向を発表、既存店売上高は前年同月比10.8%増となり、2カ月ぶりのプラスに転じ、かつ5月以来の2ケタ増となっている。客数が同0.5%減少した一方、客単価が同11.3%上昇。雨天続きが客数に影響したものの、気温低下で秋冬商品が好調な販売となった。

ただ、8日に発表した26年8月期の決算を受けて週末は大幅続落。営業利益は7431億円で前期比31.7%増となり、従来計画の7300億円を上振れたが、市場予想との比較でほぼインライン。27年8月期も8300億円を計画し、前期比11.7%増の予想だが、コンセンサス比小幅な上振れにとどまる。増配も発表しているが、サプライズ限定的な決算で出尽くし感が先行へ。やや悲観的過ぎる反応だが、75日線レベルで上値を抑えられる格好となり、目先の反発力も鈍いものとなりそうだ。



日本空港ビルディング 東証プライム<9706>

日足ベースのローソク足。先週末10月9日は5本連続陽線で終了。高値、安値、終値の切り上げが続く「赤三兵」で強い買い気を窺わせるとともに、週末終値が25日移動平均線の上方に復帰し、地合い好転を示唆した。25日線は下降中だが、25日線下方の75日線や200日線は右肩上がりで推移して大勢強気の形状。8月28日高値から10月7日安値までの半値戻し5628円クリアで反騰基調を確認し、上値を伸ばしていく展開が予想される。



チェンジホールディングス 東証プライム<3962>

週足ベースの一目均衡表。先週は上ヒゲ1円の陽線でほぼ高値引け。終値は昨年8月2週以来の雲下限越えを達成し、相場局面は「弱気」を脱して「中立」にシフトしたとみられる。株価下方では転換線と基準線がわずかに上向いているほか、遅行線が強気シグナル発生を続けているため上昇基調の継続が予想され、雲上限（今週は1165円）越えとその後の上値拡張が期待できよう。



テーマ別分析: 防御から復旧まで、サイバーレジリエンス関連に注目

■相次ぐサイバー攻撃、事業継続・復旧対策に注目

企業を狙ったサイバー攻撃や個人情報の流出が相次ぐなか、サイバーレジリエンスへの関心が高まりそうだ。サイバーレジリエンスとは、サイバー攻撃を受けた場合でも被害を最小限に抑え、事業の継続や早期復旧を図る能力を指す。従来のサイバーセキュリティ対策では侵入や攻撃を未然に防ぐことが重視されてきたが、攻撃手法の高度化や企業の IT システムの複雑化を背景に、侵入を完全に防ぐことを前提としない対策の重要性も増している。

具体的には、重要データを分散して保護する秘密分散技術や、ランサムウェアによるデータの暗号化・破壊に備えたバックアップ、被害発生後のシステム復旧などが挙げられる。また、不正アクセスの早期検知やインシデント対応、ID・アクセス管理なども被害の拡大防止に欠かせない。サイバー攻撃による業務停止は企業の業績や信用にも影響を及ぼすため、事業継続計画（BCP）の観点からも対策投資が進むとみられる。こうしたなか、データ保護やセキュリティ監視、システム復旧などを支援する関連企業に注目したい。

■主な「サイバーレジリエンス」関連銘柄

コード	銘柄略称	市場	10/9 株価 (円)	概要
2326	デジタルアーツ	プライム	5,830	Web・メール経由の脅威対策や情報漏洩防止製品を展開。
2676	高千穂交易	プライム	2,074	ランサムウェア対策基盤「Halcyon」を取り扱う。
3040	ソリトンシステムズ	プライム	3,085	認証基盤や端末管理を通じて不正アクセスを防止。
338A	ZenmuTech	グロース	4,755	秘密分散技術でデータを保護し、漏洩被害を抑制。
3692	FFRIセキュリティ	グロース	9,360	国産のエンドポイントセキュリティ製品を展開。
3762	テクマトリックス	プライム	3,085	セキュリティ製品の導入・運用や脅威対策を支援。
3774	IIJ	プライム	3,680	セキュリティ監視やインシデント対応サービスを提供。
4398	BBセキュリティ	スタンダード	2,822	セキュリティ診断や監視、事故対応サービスを提供。
4475	HENNGE	グロース	1,894	ID管理や情報漏洩防止などクラウドセキュリティを展開。
4704	トレンドマイクロ	プライム	7,587	XDRなどを通じて脅威の検知・対応を支援。
4761	さくらケーシーエス	スタンダード	1,476	ランサムウェア被害を想定した復旧環境の構築を支援。
5036	日本ビジシス	プライム	1,689	Microsoftクラウドのセキュリティ対策や運用を支援。
6676	バッファロー	スタンダード	3,560	ランサムウェア対策機能を備えた法人向けNASを展開。
6702	富士通	プライム	4,250	セキュリティ運用やインシデント対応、復旧を支援。
7752	リコー	プライム	1,725	クラウドバックアップやデータ復旧支援サービスを展開。

出所：フィスコ作成

中期スタンスで期待の中小型高配当利回り銘柄

■決算発表本格化控えて様子見ムードにも

国内企業の7-9月期決算発表は来週後半以降に本格化する。短期的には決算発表の本格化を控えて様子見ムードが強まる状況も想定される。こうしたタイミングにおいて、中期的な感覚で高配当利回り銘柄に関心を高めたい。高配当利回り銘柄に関しては、9月末の権利落ちに伴う処分売りも一巡し、現在は押し目買いの局面と考えられる。3月末に向け中期的に、配当権利取りの動きが株価の水準訂正を促していくと考えられよう。リスクを回避するならば、7-9月期の決算発表を確認してからのタイミングでも妙味となろう。

スクリーニング要件としては、①3月期本決算、②今期予想含め3期以上連続で営業利益が2ケタ増、③時価総額が2000億円以下、④配当利回りが4.5%以上。

■好業績が続く高配当利回り銘柄

コード	銘柄	市場	10/9株価 (円)	時価総額 (億円)	配当利回り (%)	株価騰落率 (%)	予想 1株利益 (円)
1815	鉄建建設	プライム	2,171.0	650.2	5.30	-5.40	226.12
1847	イチケン	スタンダード	3,310.0	482.2	5.44	31.04	495.97
2411	ゲンダイエージェンシー	スタンダード	461.0	56.7	5.42	0.00	47.27
2767	円谷フィールズHD	プライム	2,437.0	1594.5	5.74	72.84	240.95
3467	アグレ都市デザイン	スタンダード	2,666.0	153.4	5.25	0.68	398.73
3489	フェイスネットワーク	スタンダード	733.0	219.0	6.14	-5.17	128.20
4635	東京インキ	スタンダード	1,949.0	265.6	4.87	43.31	212.09
5845	全保連	スタンダード	1,193.0	318.0	4.53	24.27	107.00
7060	ギークス	スタンダード	591.0	61.1	5.41	5.91	62.01
7927	ムトー精工	スタンダード	2,386.0	184.7	4.90	21.06	431.90
8871	ゴールドクレスト	スタンダード	2,917.0	1043.8	5.49	-12.53	285.84
8877	エスリード	プライム	4,935.0	763.3	4.86	-19.23	745.33

(注) 株価騰落率は3月末比

出所：フィスコアプリより作成

アクティビスト後追い戦略の有効性

■国内系は中期、海外系は短期で優位性

大和証券は、アクティビスト後追い戦略の有効性を検証している。2015年1月～2026年8月に提出された大量保有報告書を基に、アクティビストファンドが買い増した銘柄の対TOPIX相対騰落率を分析。その結果、国内系ファンドでは大量保有報告書提出の1カ月後から半年後までの中期、海外系では提出後1カ月間の短期でアウトパフォームする傾向がみられた。一方、ファンドの保有比率や保有増加率と株価パフォーマンスには明確な相関が確認されなかったという。同証券では、国内系ファンドが直近で買い増した銘柄のうち、ネットキャッシュが厚く、PBRが1倍を下回る銘柄などに注目している。

「アクティビストファンドが買い増した銘柄を後追いで買う戦略で、今後の株価上昇に期待したい銘柄群」(大和証券)

株式コード	銘柄略称	アクティビストファンド	時価総額 (億円、10/5時点)	実績PBR (26年9月末時点)			実績PBR平均値 (21/10～26/9)			決算期	Net Cash (億円)	Net Cash /時価総額
					業種別 平均	業種別 平均以下		業種 平均	業種平均 以下			
3863	日本製紙	(株)シティインデックスイレブンス	1,501	0.29	0.61	○	0.29	0.57	○	2026/3	5,405	360.1%
3864	三菱製紙	(株)シティインデックスイレブンス	540	0.53	0.61	○	0.31	0.57	○	2026/3	1,032	190.9%
8585	オリエントC	(株)ストラテジックキャピタル	1,358	0.57	1.28	○	0.79	1.03	○	2026/3	2,572	189.4%
8871	ゴールドクレスト	(株)ストラテジックキャピタル	1,048	0.74	0.89	○	0.64	0.99	○	2026/3	1,360	129.7%
2001	ニッポン	(株)ストラテジックキャピタル	2,360	0.83	1.75	○	0.77	1.57	○	2026/3	2,899	122.8%
3765	ガンホー	(株)ストラテジックキャピタル	1,259	1.11	2.07	○	1.28	1.87	○	2025/12	1,513	120.2%
4092	日本化学工業	(株)C&I HOLDINGS	513	0.88	1.51	○	0.50	1.44	○	2026/3	503	98.1%
9006	京浜急行電鉄	(株)シティインデックスイレブンス	4,139	1.07	1.05	×	1.21	1.16	×	2026/3	3,904	94.3%
2432	DeNA	(株)ストラテジックキャピタル	2,568	1.07	2.07	○	1.01	1.89	○	2026/3	2,408	93.8%
9831	ヤマダHD	(株)シティインデックスイレブンス	6,886	0.75	2.50	○	0.54	2.23	○	2026/3	6,426	93.3%
7278	エクセディ	(株)シティインデックスイレブンス	2,755	1.09	0.83	×	0.68	0.92	○	2026/3	2,083	75.6%
7745	A&DホロンHD	(株)ストラテジックキャピタル	838	1.64	2.96	○	1.37	3.01	○	2026/3	496	59.2%
6516	山洋電気	(株)ストラテジックキャピタル	2,234	1.46	3.52	○	0.99	2.26	○	2026/3	1,279	57.2%
4189	KHネオケム	(株)ストラテジックキャピタル	1,272	1.58	1.51	×	1.51	1.44	×	2025/12	726	57.1%
7012	川崎重工業	(株)ストラテジックキャピタル	20,648	2.33	0.83	×	1.59	0.92	×	2026/3	9,485	45.9%
1518	三井松島HD	(株)エスグラントコーポレーション	1,457	1.45	2.29	○	0.85	1.38	○	2026/3	558	38.3%
6723	ルネサスエレクトロニクス	(株)ストラテジックキャピタル	72,243	2.23	3.52	○	1.99	2.26	○	2025/12	24,485	33.9%
6361	荏原	(株)ストラテジックキャピタル	22,278	4.04	2.13	×	2.52	1.72	×	2025/12	5,217	23.4%

出所：QUICK を基に大和証券作成

注：2026年6月以降に、国内系ファンドが買い増した銘柄群を記載

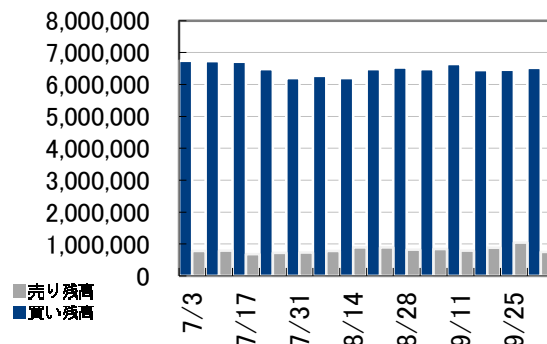
売り残高が3週間ぶりの減少に

10月2日時点の2市場信用残高は、買い残高が597億円増の6兆5235億円、売り残高が2965億円減の7507億円。買い残高が2週連続の増加、売り残高は3週間ぶりの減少となった。また、買い方の評価損益率は-5.48%から-5.56%、売り方の評価損益率は15.04%から24.26%に。なお、信用倍率は6.17倍から8.69倍となった。

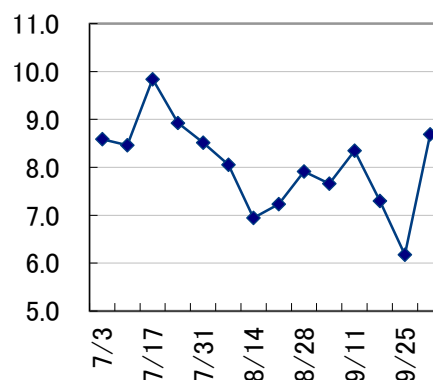
この週(9月28日-10月2日)の日経平均は前週末比1945.26円高の68309.46円。週初は米半導体株高を受けて買い先行も、過熱警戒感なども意識される中、韓国株の下落に押される展開となった。翌日も原油相場上昇などでリスク回避の動きが継続、9月中旬末の配当権利落ちの影響が響く格好に。その後、9月30日から10月1日にかけては連日の大幅上昇。米マイクロンが決算を発表、実績・見通しともに市場予想を上回る好決算となったことも半導体株の一段の上昇につながった形だ。なお、週末は連日上昇の反動が強まった。

個別では、レゾナックHD<4004>の信用倍率は、7.05倍と前週の104.92倍から取り組みが改善。9月29日に子会社のクラスケミカル<646A>が、東証スタンダード市場に上場した。パーシャルスピノフ制度のもと、新株を発行しない直接上場のため、分配株の権利取りを狙った買いが積み上がっていたとみられ、換金売りを想定した新規売りが積み上がったようだ。神戸物産<3038>の信用倍率は0.85倍と、前週の6.59倍から売り長の需給に。29日の取引終了後にユーロ円建CBを約600億円発行すると発表しており、引き受けを狙ったヘッジ対応の新規売りが積み上がったもよう。そのほか、古河電工<5801>の信用倍率が23.36倍から8.09倍、フジクラ<5803>は21.92倍から9.64倍と、それぞれ取り組みが大きく改善した。光ファイバー大手のコーニング<GLW>の上昇を受けて急伸するなかで、反動安を狙った新規売りが積み上がったようだ。

信用残高 金額ベース 単位：百万円



信用倍率 (倍)



取組みが改善した銘柄

銘柄	10/9終値 (円)	信用買残 (10/2:株)	信用売残 (10/2:株)	信用倍率 (10/2:倍)	信用買残 (9/25:株)	信用売残 (9/25:株)	信用倍率 (9/25:倍)
レゾナックHD	17,575.0	759,500	107,800	7.05	765,900	107,800	104.92
神戸物産	2,957.5	1,257,900	1,482,200	0.85	1,350,300	1,482,200	6.59
大倉工	5,440.0	155,500	257,600	0.60	58,900	257,600	3.37
古河電	4,096.0	15,463,000	1,911,400	8.09	17,761,600	1,911,400	23.36
フジクラ	5,413.0	19,554,400	2,028,600	9.64	22,914,700	2,028,600	21.92
カプコン	4,393.0	529,100	248,500	2.13	760,100	248,500	4.72
レーザーテック	48,560.0	1,175,100	680,800	1.73	1,388,000	680,800	3.38
太陽誘電	11,135.0	4,079,600	1,045,700	3.90	4,694,000	1,045,700	7.44
SUMCO	3,426.0	3,193,100	989,400	3.23	3,838,500	989,400	6.12
TDK	3,268.0	4,919,200	454,600	10.82	5,012,900	454,600	20.16
千葉銀	2,668.0	518,700	586,100	0.89	538,200	586,100	1.55
ヒューマンメイド	1,982.0	1,096,500	562,800	1.95	1,122,300	562,800	3.42
ディスコ	61,460.0	803,500	126,000	6.38	910,800	126,000	10.63
AIメカテック	9,230.0	2,342,200	762,800	3.07	3,165,100	762,800	4.96
マイクロニクス	17,330	558,200	87,700	6.36	604,800	87,700	9.85

コラム:ベトナムドンに好材料

過去最安値圏に落ち込んだベトナム通貨ドンに、一段安を回避する材料が浮上。直近の経済成長率がコロナ禍後で最高の伸びを示すなか、株式市場の再編がドン相場を下支えする力ギとして注目されます。国内経済の過熱やインフレへの懸念を和らげることができるでしょうか。

ドン相場は昨年、1ドル＝2万6400ドン台と史上最安値を付け、今年に入っても安値圏での推移が続いています。春から夏にかけては一時2万6300ドン台まで下落。その後はやや持ち直したものの、戻りは限定的で足元も2万6000ドン付近と低迷しており、ドン安圧力は依然として根強い状況です。

米国の高金利を受けたドル高が背景にあります。加えて、エネルギー価格の上昇などでベトナムの輸入代金が膨らみ、企業によるドル需要が強まったことも一因です。輸入企業は海外への支払いのためドンを売ってドルを調達するため、貿易赤字の拡大もドン安圧力につながっているのです。

ただ、足元では高い経済成長に加え、外国企業による直接投資(FDI)が堅調に流入し、こうした海外マネーがドンを下支えしているもよう。そのため、夏場に付けた最安値圏からはやや値を戻しています。

新たな支援材料として期待されるのが、株式市場の再編。今年12月28日からハノイ証券取引所(HNX)の上場株式をホーチミン証券取引所(HoSE)へ移し、上場株の取引を事実上一本化します。市場の仕組みを分かりやすくし、取引の効率性を高めることで、海外投資家を呼び込みやすくする狙いがあります。

海外から株式市場への資金流入が増えれば、為替への波及も見込まれます。市場再編だけでドン相場が反転するわけではありませんが、外国人の買いが本格化すれば、ドン安圧力を和らげる一助となるでしょう。

これは急拡大しているベトナムの景気の観点からも重要です。先日発表された7-9月期国内総生産(GDP)は前年同期比9.95%増と高い伸びを記録する一方、物価上昇への警戒も強まっています。輸出企業には一定のドン安が追い風となる半面、過度な下落は輸入物価を押し上げ、インフレを加速させかねません。

ベトナム当局としては、行き過ぎたドン安を抑えながら通貨を安定させることを期待しているようです。今後は株式市場の一本化をきっかけに海外資金がどこまで流入するかが焦点になります。貿易赤字によるドン売り圧力を外国人投資家のドン買いで相殺できるかが、相場の行方を左右しそうです。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-7
2	レーティング	格上げ・買い推奨	8
		格下げ・売り推奨	9
3	投資主体別売買動向	総括コメント	
		市場別データ	
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	10
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（プライム）	11
		雲下抜け銘柄（プライム）	12

10月12日～10月16日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
10月12日	月	19:30	印・消費者物価指数(9月)
			株式市場は祝日のため休場(スポーツの日)
			中・資金調達総額(9月、15日までに)
			中・マネーサプライ(9月、15日までに)
			中・元建て新規貸出残高(9月、15日までに)
			国際通貨基金(IMF)・世界銀行年次総会(18日まで)
			欧・欧州連合(EU)外相理事会
			米・クリーブランド連銀総裁が全米企業エコノミスト協会(NABE)の年次総会で金融政策について講演
			米・債券市場は休場(コロンブスデー)、株式市場は通常取引
10月13日	火	08:50	国内企業物価指数(9月)
		08:50	銀行貸出動向(含信金前年比)(9月)
		08:50	貸出動向 銀行計(9月)
		13:30	「生活意識に関するアンケート調査」(第107回)の結果(日本銀行)
		15:00	独・CPI(9月)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		23:00	米・中古住宅販売件数(9月)
		27:00	ブ・貿易収支(先週)
			米・財政収支(9月、20にちまでに)
			米・ボストン連銀総裁が講演
			石油輸出国機構(OPEC)月報
10月14日	水	08:50	マネーストック(9月)
		10:30	中・生産者物価指数(9月)
		10:30	中・消費者物価指数(9月)
		15:30	印・卸売物価指数(9月)
		21:00	ブ・IBGEサービス部門売上高(8月)
		21:30	米・CPI(9月)
		27:00	米・地区連銀経済報告(ページブック)公表
			中・貿易収支(9月)
			印・経常収支(8月、15日までに)
			印・貿易収支(9月、16日までに)
			米・ボウマン連邦準備制度理事会(FRB)副議長が討論会に参加

10月12日～10月16日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
10月15日	木	08:50	コア機械受注(8月)
		09:30	豪・失業率(9月)
		10:30	小枝日銀審議委員が熊本県金融経済懇談会に出席、同記者会見
		13:30	設備稼働率(8月)
		13:30	鉱工業生産(8月)
		15:00	英・鉱工業生産(8月)
		18:00	欧・ユーロ圏鉱工業生産(8月)
		19:30	印・失業率(9月)
		21:00	ブ・小売売上高(8月)
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		21:30	米・小売売上高(9月)
		21:30	米・PPI(9月)
		21:30	米・フィラデルフィア連銀製造業景況指数(10月)
		23:00	米・企業在庫(8月)
			ルクレが東証グロースに新規上場(公開価格:1480円)
			米・クリーブランド連銀総裁が討論会に参加
			G20財務相・中央銀行総裁会議
			欧・EU首脳会議(16日まで)
10月16日	金	08:50	対外・対内証券投資(先週)
		10:10	国債買い入れオペ(残存3-5年、残存10-25年、残存25年超)(日本銀行)
		15:30	全国信用組合大会で内田日銀副総裁があいさつ(植田総裁のあいさつ代読)
		18:00	欧・ユーロ圏CPI(9月)
		18:00	欧・ユーロ圏貿易収支(8月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)
		20:30	印・外貨準備高(先週)
		21:00	ブ・経済活動(8月)
		21:30	米・輸入物価指数(9月)
		22:15	米・設備稼働率(9月)
		22:15	米・鉱工業生産指数(9月)
		29:00	米・対米証券投資(8月)
			米・ウォッシュFRB議長がIMF・世銀年次総会でIMFのゲオルギエワ専務理事と対談
			英・ペイリーイングランド銀行(英中央銀行)総裁がIMF・世銀年次総会で国際金融協会(IIF)と対談

■(米)9月消費者物価指数

10月14日(水)午後9時30分発表予定

(予想は、前年比+3.6%) 米9月消費者物価指数(CPI)は、前年比+3.6%(8月:同+3.4%)、コア指数は同+2.5%(同+2.4%)と伸びが加速する見通し。CPIが市場予想を上回り、米金利が上昇すれば、ドル買いが進みやすい。

■(豪)9月雇用統計(雇用者数・失業率)

10月15日(木)午前9時30分発表予定

(予想は、雇用者数前月比+2.00万人、失業率4.6%) 前回8月は雇用者数が増加した一方、失業率は4.5%から4.6%へ上昇し、労働市場の緩やかな軟化が示された。オーストラリア準備銀行(豪準備銀行・RBA)は9月会合で政策金利を4.60%へ引き上げており、今回は追加利上げの必要性を判断する上で重要な材料となる。雇用や失業率が予想以上に強ければ豪ドル買いが進みやすい一方、労働市場の減速が鮮明となれば豪ドルの上値を抑える可能性がある。

■(英)8月月次国内総生産(GDP)

10月15日(木)午後3時発表予定

(予想は、前月比-0.1%) 前回7月は前月比+0.4%と6月の+0.3%から伸びが加速し、サービス業を中心に景気の底堅さが確認された。今回は物価上昇や高金利による内需への影響が焦点となる。予想を上回ればイングランド銀行(英中央銀行)の追加利上げ観測を支えてポンド買いが進みやすい一方、予想を下回れば景気減速への懸念からポンド売りにつながる可能性がある。

■(米)9月生産者物価指数

10月15日(木)午後9時30分発表予定

(予想は、総合前年比+5.3%、コア同+4.4%) 前回8月は総合指数が前年比+5.4%となり、生産者段階での強い物価上昇圧力が確認された。今回はエネルギーや輸送コストの上昇が企業の販売価格にどの程度反映されているかが焦点。前日のCPIと合わせてインフレ圧力の持続性を判断する重要な材料となり、予想を上回れば米金利上昇とドル買いにつながりやすい。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
10月13日	1401	エムビーエス	グロース		10月14日	2305	スタジオアリス	スタンダード	
	1419	タマホーム	プライム			2337	いちご	プライム	
	189A	D&Mカンパニ	グロース			2459	アウンコンサル	スタンダード	
	2164	地域新聞	スタンダード			2462	ライク	プライム	
	228A	オプロ	グロース			2471	エスブール	プライム	
	2338	クオンタムS	スタンダード			2872	セイヒョー	スタンダード	
	2379	ディップ	プライム			2882	イートアンドH	プライム	
	2653	イオン九州	スタンダード			3030	ハブ	スタンダード	
	2668	タビオ	スタンダード			3045	カワサキ	スタンダード	
	2736	フェスタリアHD	スタンダード			3065	ライフフーズ	スタンダード	
	2769	ヴィレッジV	スタンダード			3075	銚子丸	スタンダード	
	2791	大黒天	プライム			3077	ホリイフード	スタンダード	
	3080	ジェーソン	スタンダード			3083	スターシーズ	スタンダード	
	3086	Jフロン	プライム			3093	トレファク	プライム	
	3087	ドトル日レス	プライム			3139	ラクトJPN	プライム	
	3236	プロバスト	スタンダード			3168	MERF	スタンダード	15:30
	3267	フィルカンパニ	スタンダード			3177	ありがと	スタンダード	
	3297	東武住販	スタンダード			3181	買取王国	スタンダード	
	3349	コスモス薬品	プライム			323A	フライヤー	グロース	
	3647	アスリナ	スタンダード			3280	エストラスト	スタンダード	
	4176	ココナラ	グロース			3387	クリレスHD	プライム	
	4198	テンダ	スタンダード			339A	プログレス	グロース	
	4199	ワンブラ	グロース			340A	ジグザグ	グロース	
	4274	細谷火	スタンダード	15:00		3536	アクサスHD	スタンダード	
	4343	ファンタジー	プライム			3543	コメダ	プライム	
	4714	リソー教育G	プライム			3560	ほぼ日	スタンダード	
	4920	日本色材	スタンダード			3562	No. 1	スタンダード	
	6142	富士精	名証			3608	TSIHD	プライム	
	6159	ミクロン精密	スタンダード			365A	伊澤タオル	スタンダード	
	6217	津田駒	スタンダード			3678	メディアドウ	プライム	
	6432	竹内製作	プライム			3760	ケイブ	スタンダード	
	7085	カーブスHD	プライム			3892	岡山製紙	スタンダード	
	7219	HKS	スタンダード			3922	PRTIMES	プライム	15:30
	7512	イオン北海	スタンダード			3967	エルテス	グロース	
	7516	コーナン商事	プライム			3977	フュージョン	札証アンビジャス	
	7520	エコス	プライム			3987	エコモット	グロース	
	7607	進和	プライム			3991	ウオンテッドリ	グロース	
	7725	インタアクション	プライム			4057	インタファクトリ	グロース	
	7811	中本パクス	スタンダード			4076	シイエヌエス	グロース	
	8095	アステナHD	プライム			418A	ウリドキ	名証	
	8181	東天紅	スタンダード			4397	チームスピリト	グロース	
	8198	MV東海	スタンダード			4429	リックソフト	グロース	
	8247	大和	スタンダード			4432	ウイングアーク	プライム	
	8267	イオン	プライム			4577	ダイト	プライム	
	8273	イズミ	プライム			464A	QPSHD	グロース	
	8904	AVANTIA	スタンダード			4668	明光ネット	プライム	
	9216	ビーウィズ	プライム			4673	川崎地質	スタンダード	
	9278	ブックオフGH	プライム			505A	ギークリー	スタンダード	
	9661	歌舞伎	スタンダード			5129	FIXER	グロース	
	9812	テーオーHD	スタンダード			523A	セイワHD	グロース	
	9842	アー克蘭ズ	プライム			5246	ELEMENTS	グロース	
	9876	コックス	スタンダード			5250	GMOプライム	スタンダード	
	9948	アークス	プライム			542A	ビタブリット	グロース	
10月14日	135A	VRAIN	グロース	16:00	5578	ARアドバン	グロース		
	138A	光フード	グロース		5885	ジーデップ	スタンダード		
	1434	JESCOHD	スタンダード		5967	TONE	スタンダード		
	156A	マテリアルG	グロース		6025	日本PC	名証		
	2153	イージェイHD	プライム		6047	Gunosy	スタンダード		
	2186	ソーパル	スタンダード		6086	シンメンテHD	グロース		
	2292	SFoods	プライム		6183	ベル24HD	プライム		

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
10月14日	6505	東洋電	スタンダード		10月14日	353A	エレベーターコミュニケーションズ	福証	
	6552	GameWith	スタンダード			3547	ユニシアHD	スタンダード	
	6558	クックビズ	グロース			3548	パロック	プライム	
	6634	JNG	スタンダード			3557	U&C	グロース	
	6897	ツインバード	スタンダード			3558	ジェイドG	グロース	15:30
	7373	アイドマHD	グロース			3645	メディカネット	スタンダード	
	7453	良品計画	プライム			367A	ブリモGHD	スタンダード	
	7581	サイゼリヤ	プライム			3697	SHIFT	プライム	
	7599	IDOM	プライム	15:30		369A	エータイ	グロース	
	7601	ボブラ	スタンダード			372A	レント	スタンダード	
	7608	エスケイ	スタンダード			373A	リップス	グロース	
	7805	プリントネット	スタンダード			3791	IGポート	スタンダード	15:30
	7847	グラファイトD	スタンダード			3810	サイバーSHD	スタンダード	
	7879	ノダ	スタンダード			3826	システムインテ	スタンダード	
	7928	旭化学	スタンダード			3915	テラスカイ	プライム	
	8143	ラビース	スタンダード			3935	エディア	スタンダード	
	8237	松屋	プライム			3994	マネフォワード	プライム	
	8260	井筒屋	スタンダード			4015	ベイククラウド	グロース	
	9168	ライズ	グロース			4016	MITHD	スタンダード	
	9264	ポエック	スタンダード			402A	アクセルスベ	グロース	
	9331	キャスター	グロース			414A	オーバラップ	グロース	
	9418	U-NEXT	プライム			4197	アスマーク	スタンダード	
	9560	プログリット	グロース			4270	BeeX	グロース	
	9601	松竹	プライム			4370	モビルス	グロース	
	9837	モリト	プライム			4412	サイエンスアーツ	グロース	
	9993	ヤマザワ	スタンダード			4413	ボードルア	プライム	
10月15日	1407	ウエストHD	スタンダード			4434	サーバーワクス	スタンダード	
	1418	インターライフ	スタンダード			4439	東名	スタンダード	
	1430	ファーストコボ	スタンダード			4490	ビザスク	グロース	
	1887	日本国土	プライム			4616	川上塗	スタンダード	
	190A	Chordia	グロース			469A	フィットクルー	グロース	
	198A	ポストブライ	グロース			4885	室町ケミカル	スタンダード	
	205A	ロゴスHD	グロース			5018	MORESCO	スタンダード	
	2168	パソナG	プライム	15:30		5025	マーキュリー	グロース	
	2404	鉄人化HD	スタンダード			5026	トリプルアイス	グロース	
	2437	シンワワイズ	スタンダード			5078	セレコーボ	スタンダード	
	2449	ブラップJ	スタンダード			5527	propetec	グロース	16:30
	244A	グロースエクス	グロース			5574	ABEJA	グロース	
	245A	INGS	グロース			5575	Globee	グロース	
	2484	出前館	スタンダード			5580	プロディライ	グロース	
	274A	ガーデン	スタンダード			5817	JMACS	スタンダード	
	2762	SANKOMF	スタンダード			581A	GO	グロース	
	276A	ククレブ	グロース	15:30		5869	早稲田学	スタンダード	
	277A	グローピンク	プライム	15:30		589A	ネイス	グロース	16:00
	2798	Y'S	スタンダード			6058	ベクトル	プライム	
	280A	TMH	グロース			6150	タケダ機	スタンダード	
	2884	ヨシムラフード	プライム			6182	メタリアル	グロース	
	2927	AFC-HD	スタンダード			618A	KOMPEITO	グロース	
	2930	北の達人	プライム	15:30		6199	セラク	スタンダード	
	2934	Jフロンティア	グロース			6224	JRC	グロース	
	2936	ベースフード	グロース			623A	ベルテックス	スタンダード	
	3021	PCNET	スタンダード			6521	オキサイド	グロース	
	304A	フォルシア	グロース			6522	アスタリスク	グロース	
	3174	ハビネス&D	スタンダード			6532	ペイカレント	プライム	
	3189	ANAP	スタンダード			6543	日宣	スタンダード	
	3223	エスエルディー	スタンダード			6555	MSコンサル	スタンダード	16:00
	325A	TENTIAL	グロース			6572	オーブング	プライム	
	3266	ファンダクリG	スタンダード			6578	コレックHD	スタンダード	
	3440	日創G	スタンダード			6866	日置電	プライム	15:00
	3479	TKP	グロース			7035	anfac	スタンダード	

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
10月15日	7049	識学	グロース	
	7065	ユービーアール	スタンダード	
	7074	247HD	グロース	
	7077	ALiNK	グロース	
	7083	AHCG	グロース	
	7351	グッドパチ	グロース	
	7352	TWOSTONE	グロース	
	7357	ジオコード	スタンダード	
	7360	オンデック	グロース	
	7388	FPパートナー	プライム	
	7514	ヒマラヤ	スタンダード	
	7610	ティーツー	スタンダード	
	7689	コバ	グロース	
	7719	東京衡機	スタンダード	
	7730	マニー	プライム	
	7807	幸和製作	スタンダード	
	7808	CSランバー	スタンダード	
	7815	東ボード	スタンダード	
	7818	トランザクショ	プライム	
	7997	くろエ	スタンダード	
	8167	リテールPT	プライム	
	8233	高島屋	プライム	
	8254	サイカ屋	スタンダード	
	8783	abc	スタンダード	
	8887	シーラHD	スタンダード	
	9215	CaSy	グロース	
	9238	バリュウC	グロース	
	9241	FLN	グロース	
	9250	GRCS	グロース	
	9252	ラストワンマイル	グロース	
	9326	関通HD	グロース	
	9388	ババネッツ	福証Q-Board	
	9602	東宝	プライム	
	9628	燦HD	プライム	
	9778	昂	スタンダード	
	9978	文教堂HD	スタンダード	
	9979	大庄	スタンダード	
10月16日	2411	ゲンダイAG	スタンダード	15:00

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
10月5日	ゴールドマン	6301	コマツ	中立→買い格上げ	6700→9000
	東海東京	7734	理計器	OUTPERFORM新規	4000
		9336	大栄環境	OUTPERFORM新規	4100
10月6日	SMBC日興	3099	三越伊勢丹	2→1格上げ	2000
		642A	キューデンHD	1新規	2230
	シティ	6305	日立建機	2→1格上げ	6500
10月7日	大和	8985	JHR	2→1格上げ	99000
10月8日	JPモルガン	1801	大成建	OVERWEIGHT新規	15000
		1812	鹿島	OVERWEIGHT新規	6300
	SMBC日興	6367	ダイキンエ	1新規	28800
	みずほ	6305	日立建機	買い新規	7750
		6506	安川電	買い新規	5800
10月9日	SMBC日興	3269	ADR	2→1格上げ	172000→180000
	みずほ	4552	JCRファーマ	中立→買い格上げ	690→1200
	野村	7915	NISSHA	NEUTRAL→BUY格上げ	1430→1600

格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
10月5日	ゴールドマン	6305	日立建機	売り新規	5000
		6326	クボタ	買い→売り格下げ	3400→2500
	みずほ	3468	スターアジア	買い→中立格下げ	65000→59500
10月6日	モルガン	6770	アルプスアル	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	3000→2450
10月7日	大和	9602	東宝	2→3格下げ	1400→1660
	野村	7564	ワークマン	BUY→NEUTRAL格下げ	8100→5700
10月8日	野村	9697	カプコン	BUY→NEUTRAL格下げ	4200→4400
10月9日	SMBC日興	3281	GLP	1→2格下げ	175000→160000
		3283	プロロジス	1→2格下げ	108000→100000
	UBS	6594	ニデック	BUY→NEUTRAL格下げ	2800→2400
	ゴールドマン	3407	旭化成	買い→中立格下げ	2250→2010
		4183	三井化学	中立→売り格下げ	2310→2250

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円/発表日)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円/発表日)	初値 (円)	主幹事	10/9終値 (円)
アイビスホールディングス	9334	名証ネクスト、 福証Q-Board	10/13	500～520	200,000	30,000	520	-	フィリップ・ キャピタル	-
事業内容: 就労継続支援B型事業所の運営										
ルクレ	648A	グロース	10/15	1,390～1,480	500,000	3,341,000	1,480	-	野村	-
事業内容: デバイス×AIクラウド型の「記録DXプラットフォーム」を提供										
トグルホールディングス	652A	グロース	10/30	10/14	2,244,600	1,124,900	10/22	-	SMBC日興、 UBS、SBI	-
事業内容: 独自のAI技術を活用した再開発可能土地の仕入販売およびAIシステム/AIエージェント開発等										
MabGenesis	653A	グロース	11/2	10/13	940,700	1,047,200	10/22	-	東海東京	-
事業内容: ペット用抗体医薬品の研究開発										
Allganize Holdings	656A	グロース	11/4	10/16	658,100	2,954,900	10/26	-	SMBC日興、大和	-
事業内容: 企業の業務自動化を支援するAIエージェント・生成AIプラットフォームの開発およびSaaS・オンプレミス形態での提供										
LTV-X	655A	名証ネクスト	11/5	10/15	367,000	333,000	10/26	-	Jトラストグ ローバル	-
事業内容: 各業界の事業者向けに顧客管理・マーケティングオートメーション・オペレーション業務を支援するクラウドシステム「LTV-Labシリーズ」「ふるさとLab」「LTV-Zaiko」等を開発・提供										
estie	658A	グロース	11/6	10/20	50,000	5,638,800	10/28	-	SMBC日 興、みずほ	-
事業内容: 不動産プラットフォーム事業(独自構築した商業用不動産データベースを活用したVertical Data ソリューション、エンタープライズ実装及び専門情報サービスの提供)										
RECEPTIONIST	660A	グロース	11/10	10/21	50,000	1,416,200	10/30	-	SBI	-
事業内容: クラウド受付システム「RECEPTIONIST」の提供等を行うクラウドサービス事業										

雲上抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1980	ダイダシ	3045	3003.75	2452.5	2229	カルビー	3069	3023.5	2897
25935	伊藤園第1種優先株	1909	1854	1832	2670	ABCマート	2853	2681.5	2823
2676	高千穂交	2074	2063.75	2062.5	2809	キュービー	4280	4270	3928.5
3182	オイシックス	1669	1484.25	1644	3569	セーレン	3495	3320	2902.5
3626	TISI	4174	3717.5	4146	3636	三菱総研	5010	4832.5	4842.5
3657	ポールHD	338	310	334.5	3769	GMOPG	8922	8534	8801.5
3788	GMO-GS	2375	2087.25	2174.5	3923	ラクス	1134	922.75	1058.5
4046	大阪ソーダ	2112	2056	1965.5	4071	プラスアルファ	2181	2162.75	2074
4194	ビジョナル	9824	7934.5	9370	4202	ダイセル	1458	1428	1398
4362	日本精化	2805	2673.75	2562.5	4396	システムサポ	1411	1234	1347
4432	ウイングアーク	3465	2907.75	3353	4668	明光ネット	743	710.25	742
4709	IDHD	1103	994.5	1088.5	4776	CYBOZU	3095	2420.5	3054
4792	山田コンサル	1727	1691.5	1723	4828	ビーエンジ	1384	1378.5	1251
4927	ポーラオールHD	1381	1339.25	1324.5	4973	高純度化	4960	4780	4295
5036	日本ビジネスシステム	1689	1578.25	1440.5	5233	太平洋セメ	4142	4082.5	4116.5
5288	アジアパイル	1424	1421.75	1224.5	5932	三協立山	739	673.75	663
6036	キーパー技研	3725	3345.75	3669.5	6309	巴工業	1957	1955.5	1786
6315	TOWA	2650	2578.25	2211.5	7172	JIA	2149	2046.75	2041
7242	カヤバ	1562	1535.25	1336	7554	幸楽苑	1180	1157	1128
7575	日本ライフL	1492	1477.25	1489.5	7701	島津製	4325	4060	3884.5
7744	ノーリツ鋼機	2077	2051.25	1883.5	7751	キャノン	4708	4581.75	4494.5
7921	TAKARA & C	4235	4108.75	3947.5	7936	アシックス	4474	4355.75	3834
7988	ニフコ	2496	2457.5	2194.5	8200	リンガーハット	2314	2271.5	2278
8233	高島屋	2141	2045.5	1769	8614	東洋証	702	693.75	616.5
9037	ハマキョウ	1810	1789.25	1605	9042	阪急阪神	4571	4425.75	4314
9247	TREHD	1774	1684.75	1577.5	9279	ギフトHD	2151	2098.75	1978
9504	中国電力	1011	1010.75	911	9552	クオオンツ総研ホール	1139	881.25	1006.5
9729	トーカイ	2589	2552.75	2465	9746	TKC	4110	3923.75	4082.5

雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1934	ユアテック	2468	2859.5	2495.5	1952	新日空調	3030	3662.75	3087
1976	明星工業	1659	1834.5	1690.5	2359	コア	2005	2193	2036.5
2933	紀文食品	1050	1072.5	1123	3050	DCM	1518	1597.75	1523.5
3110	日東紡	3415	4364.5	3433	3179	シュッピン	1137	1229.75	1203
3186	ネクステージ	2630	3197.75	2658	3608	TSI HD	1200	1242	1221.5
3741	セック	3150	3421.5	3207.5	5074	テスホールディングス	506	575.5	534
5423	東製鉄	1611	1694.5	1650.5	5911	横河ブHD	2840	3023	2877.5
5943	ノーリツ	2160	2293.75	2165	6289	技研製作所	1949	2128	1957.5
6305	日立建機	5502	5961	5604	6420	ガリレイ	3375	3606.25	3392
6644	大崎電	1408	1667.5	1411.5	7911	TOPPAN	2367	2453	2371.5
8091	ニチモウ	2261	2559	2320.5	8125	ワキタ	1793	1968.75	1880
8174	日瓦斯	911	977	929	8424	芙蓉リース	4208	4354.25	4220
8425	みずほリース	1247	1415	1278	8793	NECキャピ	4025	4117.5	4035
9405	朝日放送HD	782	854.25	799	9519	レノバ	845	876.5	849.5
9533	東邦ガス	1197	1271.25	1206	9699	西尾HD	3970	4465	4335
9744	メイテックG	3265	3349	3291.5	9765	オオバ	1143	1208.25	1166
9956	パローHD	1558	1772.5	1596					

株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

【お取引時の手数料について】(営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示)

- 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引(当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円)となります。又、外国株式の売買取引には売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額)に対して最大0.88%の委託手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。
- 非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債等)を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
- ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。＜直接費用＞購入手数料(スイッチング手数料を含む)上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料(スイッチング手数料を含む)、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。
＜間接費用＞運用管理費用(信託報酬)上限2.50%、(注)その他の費用・手数料(監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等)をご負担頂きます。(注)その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
- 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

【リスクについて】

- <株式、上場ETF、債券のリスク>株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
- <為替リスク>外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
- <上場リートのリスク>リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害(地震、火災等)等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
- <ファンドのリスク>ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの「収益分配金に関する留意事項」及び「通貨選択型投資信託の収益イメージ」は、必ずご確認して頂きたい重要事項となっておりますので、投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みください。



商号等 ひろぎん証券株式会社
加入協会 金融商品取引業者中国財務局長(金商)第20号
日本証券業協会

(帳票J-10-002 企画部2024年4月改正)

本店営業部	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-8	Tel: 082-245-5000	三 次 支 店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	Tel: 0824-62-3121
福 山 支 店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	Tel: 084-922-1321	可 部 支 店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	Tel: 082-815-2600
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	Tel: 086-222-1561	広島西支店	〒733-0841 広島市西区井口明神1-17-4	Tel: 082-277-2700
府 中 支 店	〒726-0004 府中市府川町335-1	Tel: 0847-45-8500	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和町2-7	Tel: 082-422-3621
尾 道 支 店	〒722-0036 尾道市東御所町1-15	Tel: 0848-23-8121	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	Tel: 0829-31-6611
尾 道 支 店 今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	Tel: 0898-55-8280	岩 国 支 店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	Tel: 0827-22-3161
呉 支 店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	Tel: 0823-21-6401	徳 山 支 店	〒745-0034 周南市御幸通2-15	Tel: 0834-31-5350
			徳 山 支 店 萩 営 業 所	〒758-0027 萩市吉田町51-11	Tel: 0838-25-2121
			宇 部 支 店	〒755-0029 宇部市新天町2-3-3ポスティビル	Tel: 0836-31-1105

ネットセンター(インターネット取引) <https://www.hirogin-sec.co.jp>